

新産地化への道

山口県繊維加工協組
シンポジウムより
3

岡部 縫製業は人がた地を山口で製品化するこ
くさんいる職場ですが、とで、それを川下と連携
地域経済にとってどう位して売っていくというモ
置づけざるべきでしょう
デルの産地
になれるの
か。

山口を川中の中核産地へ

宗近 山口県が縫製業
を中心とした産地として
しょうか。

改めて出発しようという
のが、今回のシンポジウ
ムの趣旨ですね。今後、
モデリストの育成も行う
という事です。ま、川上・川下をつなぐ
ず山口を縫製の拠点とし
て構築し、全国からの生

なれば、他産業もそれに
乗らない話はないわけで
す。

本多 イタリアのビエ
ラ産地にゼニアというメ
ーカーがあります。その
ゼニアは、スイスにパタ
ーンオーダーの縫製工場
を持っていきます。工場の

「メイドイン・イタリア
」ではダメだ。これ
からは「メイドイン・イ
タリー・バイ・ゼニア」
だ」と言うわけです。つ
まり、イタリアの差別化
のがにじむような街にな
ればいいですね。山口の
魅力は、「人」だと思い
ます。そして他産地とも
手を携えと思えます。

て強い産地になっ
ていきたくて考えている
のですが、その価値を語
っていた

そういう形になれば、県
外との連携もできます
し、他産業との連携も
できるのではないでしょ
う。業背景が、それこそ
文化的なレベルでも違
うわけ
そして、彼らは「もう
に人を呼び込んでいかな
口が減少しています。県
れを発信することが大事

岡部 「高付加価値」
とは、「高文化価値」だ
と。その価値を語って
いた

内には工場があっても、装
置型産業だけで、クリエ
ーティブな職場が少ない
からです。その点でも若
者が魅力を感じるような
モノ作りの職場を作るこ
とが、人口問題の上でも
重要になってきます。その
割を果たしていきたいと
思います。

- パネラー
- 日本モデリスト協会事務局長 本多 徹 氏
 - 山口井筒屋 社長 河内一彦 氏
 - 山口経済研究所 調査研究部長 宗近 孝憲 氏
 - 本紙「繊維ニュース」記者 宇治 光洋
 - コーディネーター
 - 山口県繊維加工協同組合 理事長 岡部 泰民 氏